施策評価結果一覧

【基本目標 I】安定給水の確保と安全性の向上

	施策	達成状況	妥当性	頁番号
1	水道水・工業用水の水質管理の徹底	B	I	P 1～
2	県内水道事業者や企業団等との広域連携	A	I	P 3～
3	水道・工業用水道の災害時における機能強化	B	I	P 4～
4	水道・工業用水道の危機管理対策	A	Ⅱ	P 6～
5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策	A	I	P 7～
6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理	A	I	P 8～
7	水道・工業用水道の地球温暖化対策	B	I	P 9～
8	水道・工業用水道の資源・施設の有効利用	A	I	P 10～

【基本目標Ⅱ】下水道による良好な循環機能の形成

施策		達成状況	妥当性	頁番号
9	浸水対策	A	I	P 11～
10	下水道の管きよ・施設の地震対策	A	I	P 12～
11	下水道の危機管理対策	A	Ⅱ	P 13～
12	下水道の管きよ・施設の老朽化対策	A	I	P 14～
13	下水道の管きよ・施設の維持管理	A	I	P 15～
14	下水道の高度処理	A	I	P 16～
15	合流式下水道の改善	B	I	P 17～
16	下水道の未普及地域の解消	A	I	P 18～
17	下水道の事業場指導・水質管理	A	I	P 19～
18	下水道の地球温暖化対策	B	I	P 20～
19	下水道の資源・施設の有効利用	A	I	P 21～

【基本目標Ⅲ】市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保

施策		達成状況	妥当性	頁番号
20	お客さまとの信頼関係の構築	A	I	P 22～
21	お客さまの利便性の向上	A	I	P 24～
22	世界の水環境改善に向けた国際事業	A	I	P 25～
23	持続可能な経営基盤の確保	A	Ⅱ	P 26～

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課	水道計画課
-------	-------

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給【安全・安心】
	施策 1	水道水・工業用水の水質管理の徹底
施策の概要	水源の保全や水源水質の監視、水安全計画に基づく水質管理により、良質で安全な水道水を供給するとともに、更なる水道水の安全性の向上のため、受水槽点検の啓発や直結給水方式の普及を推進します。また、工業用水について、水質目標値に沿った水質管理を徹底します。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
1	水源の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・アオコ異常発生抑制対策 ・相模貯水池のしゅんせつ ・水源水質の保全に関する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・相模湖と津久井湖のエアレーション装置を稼働しアオコ異常発生抑制対策を実施しました。 ・相模貯水池のしゅんせつについては、上流部への土砂流入が少なかったため、年間のしゅんせつ量は13.9万m3にとどまりました。 ・水源域の特定事業場、ガソリンスタンド及びゴルフ場に対し、水質汚染防止の協力を要請するなど水源水質の保全活動を実施しました。 	1,312,690	1,055,447	3	A	I	
				1,473,362	1,357,701	3	A	I	
所管課	水道管理課								
2	安全でおいしい水の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・水安全計画に基づく水質管理 ・適正な水質検査とその信頼性の確保 ・おいしい水の供給 ・水質等に関する調査・検討 ・広域水質管理センターによる水源の水質監視 	<ul style="list-style-type: none"> ・水安全計画による水質管理により、水道水質基準適合率100%を継続しました。また、水質検査計画に基づいた検査を実施し、水道GLPIに従い、検査精度と信頼性を確保しました。 ・残留塩素低減化を推進し、令和5年度の残留塩素濃度低減化目標達成率は、76.8%になりました。 	102,854	86,441	3	A	I	
				125,343	87,966	2	A	I	
所管課	水道計画課								
3	工業用水の水質管理	<ul style="list-style-type: none"> ・水質目標値に沿った水質管理 ・適正な水質測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用水道事業法に則った水質測定項目による水質管理を徹底し、本市で設定した工業水質目標達成率100%を継続しました。 	15,892	7,608	3	A	I	
				9,930	9,742	3	A	I	
所管課	水道計画課								
4	受水槽設備の適正管理に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模受水槽の点検調査の継続による適正管理への関与 ・受水槽の管理状況等の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模受水槽については、5区を対象に点検調査を実施しました。 ・受水槽の管理状況等を所有者へ情報提供することで、所有者の衛生管理意識を向上させ、受水槽利用者が、より安全に水道水を利用できるようになりました。 	4,492	3,756	3	A	I	
				7,465	4,114	3	A	I	
所管課	水道管理課								
5	直結給水方式の導入促進	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道局ウェブサイト等による広報 ・給水装置工事相談窓口での直結給水方式の導入促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・直結給水方式に関するメリット等を説明した局ウェブサイトについて、手続きのフローを改善し、広報の充実を図りました。 ・直結給水方式の導入促進については、給水装置工事相談窓口において、リーフレットの配布を行いました。 	-	-	3	A	I	
				-	-	3	A	I	
担当課	給水装置課								
6	市立小・中学校の直結給水化	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の計画に基づいた、市立小・中学校の直結給水化 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の計画に基づいた、市立小・中学校の直結給水化については、令和4年度に2校、令和5年度に14校を予定していましたが、まちづくり局発注(教育委員会依頼)の直結給水化工事を予定通り設計したものの、工事費の高騰や入札不調等により、一部工事で再発注となったため、合計で6校の直結給水化となりました。 	9,000	0	4	B	II	
				63,112	22,708	4	B	I	
担当課	水道計画課								

3 施策の達成状況

	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	B	・「水源の保全」については、しゅんせつ量は目標を下回ったが、その他は概ね順調に推移したため。 ・「安全でおいしい水の取組」については、水道水質基準適合率及び残留塩素濃度低減化目標達成率のいずれも順調に推移したため。 ・「工業用水の水質管理」については、工水水質目標達成率が順調に推移したため。 ・「受水槽設備の適正管理に向けた支援」については、点検調査を実施し調査結果を所有者へ情報提供することにより、適正管理に関する取組が順調に推移しました。 ・「直結給水方式の導入促進」については、ウェブサイトや広報紙への掲載、窓口でのリーフレット配布等、順調に推移したため。 ・「市立小・中学校の直結給水化」については、目標値を下回ったが、一定の進捗がありました。

4 今後の方向性

	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	・「水源の保全」については、概ね計画どおり進捗しており、引き続き、原水の水質悪化を抑制する必要があることから現状のまま継続します。 ・「安全でおいしい水の取組」については、計画目標どおり進捗しており、これまで以上に良質で安全な水の安定供給につながることから、現状のまま継続します。 ・「工業用水の水質管理」については、計画目標どおりに進捗しており、水質目標値に沿った工業用水を安定して供給するため、現状のまま継続します。 ・「受水槽設備の適正管理に向けた支援」については、適正管理の一層の推進のため、手紙やウェブサイト等による啓発の強化を図りながら進めていきます。 ・「直結給水方式の導入促進」については、局ウェブサイト等による広報を効果的に実施し、直結給水方式の導入を促進していきます。 ・「市立小・中学校の直結給水化」については、次世代を担う子どもたちに、水道水の安全性やおいしさを理解してもらい、環境負荷の低減を図りながら進めていきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

水道計画課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給
	施策 2	県内水道事業者や企業団等との広域連携
施策の概要	水源を共にする県内水道事業者や企業団等と連携し、ダムとの相互連携などによる安定的な水運用に継続して取り組むとともに、環境負荷の低減等を目的とした上流取水の優先的利用や施設のバックアップ機能の強化など、最適な水道システムの実現に向けた検討を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
7	ダムとの相互連携等による水運用	相模川水系総合運用による効率的な水の運用 相模川水系と酒匂川水系の連携による効率的な水運用	ダムとの相互連携等による効率的な水運用を実施し、水源水質事故リスク等の低減、安定した水の供給の維持に継続して貢献することができました。	R4年度	-	3	A	I
				R5年度	-	3	A	I
8	最適な水道システムの実現に向けた取組	県内水道システムの再構築の検討 広域水質管理センターによる水質管理	水源を共にする5水道事業者で連携し、水道システムの再構築に係る「5事業者の施設整備計画」や広域水質管理センターの次期共同事業の運営方法を取りまとめるなど、最適な水道システムの実現に向けて、取組を推進することができました。	R6年度	-	3	A	I
				R7年度	-	3	A	I

3 施策の達成状況

施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A

4 今後の方向性

今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課	水道計画課
-------	-------

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】
	施策 3	水道・工業用水道の災害時における機能強化
施策の概要	災害時にも安定した給水・供給が継続できるように、基幹施設や管路の耐震化を進め、基幹管路については二重化・ネットワーク化を図ります。 応急給水拠点については、市立小・中学校と配水池・配水塔などへの開設不要型応急給水拠点の整備や拡充等に加え、応急給水拠点を補完する臨時給水用井戸の整備により、応急給水の確実性や迅速性を高めます。また、施設の浸水対策(耐水化)の推進や停電対策の拡充を図ります。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
取組所管課									
9	水道施設の耐震化	・施設の耐震化 ①黒川高区配水池(令和4年度未完了) ②千代ヶ丘配水塔2号塔(令和4年度未完了)	・施設の耐震化については、黒川高区配水池の耐震化を令和4年度末に完了しました。しかし、千代ヶ丘配水塔2号塔については、工事は推進しているものの、工事に伴い発生する騒音・振動に関する強い陳情への対策に時間を要したため、完成が令和6年度となりました。	921,804	683,791	4	A	I	
				730,179	964,103	4	B	I	
10	水道管路の耐震化	・水道管路の更新に合わせた耐震化 ・重要な管路の耐震化(令和4年度未完了) ・地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の選定・耐震化の実施	・水道管路の更新に合わせた耐震化については、管路の老朽度・継手構造・今後の工事量の平準化等を考慮して策定した計画に基づき効率的に実施しました。 ・重要な管路の耐震化については、重要施設への供給ルートの耐震化を令和5年度末に完了しました。 ・地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の選定・耐震化の実施については、消防署、警察署や二次避難所となる入所型社会福祉施設など、災害時にも給水の継続が必要である施設への供給ルートの耐震化を実施しました。	14,746,310	10,188,680	3	A	I	
				14,541,141	11,296,447	3	A	I	
11	水道基幹管路の強化	・水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ①千代ヶ丘2号送水管(令和4年度未完了) ②東百合丘配水管(令和4年度未完了) ③高石3号配水管(令和7年度未完了) ④犬蔵配水管 ⑤土橋配水管(令和7年度未完了) ⑥管配水管(令和7年度未完了) ⑦その他管路	・水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化については、千代ヶ丘2号送水管と東百合丘配水管の整備を令和4年度末に完了しました。土橋配水管の整備は、令和5年度に着手し、高石3号配水管、犬蔵配水管、管配水管については、詳細設計委託業務等を行いながら整備に向け取組を推進しました。	1,451,702	1,625,394	3	A	I	
				430,256	14,541	3	A	I	
12	工業用水道基幹管路の強化	・工業用水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ①浄水場連絡管(令和7年度未完了) ②1・3号送水連絡管(令和6年度未完了) ③2・3号送水連絡管(令和7年度未完了)	・工業用水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化については、浄水場連絡管の整備は、令和5年度に着手し、送水連絡管(2路線)については、詳細設計委託業務等を行いながら整備に向け取組を推進しました。	63,150	0	3	A	I	
				147,252	52,659	3	A	I	
13	応急給水拠点等の整備	・開設不要型応急給水拠点の整備(令和5年度未完了) ・応急給水拠点の利便性の検討及び拡充 ・臨時給水用井戸の整備(令和4年度未完了)	・開設不要型応急給水拠点の整備については、55箇所の整備を完了しましたが、関連工事の遅延により2箇所が未完成となり、全施設の整備完了予定は令和7年度となりました。 ・応急給水拠点の利便性の検討及び拡充については、利便性や確実性、設置に対する妥当性を考慮しながら分析、検討を実施しました。 ・臨時給水用井戸の整備については、現場状況により、受注者と協議を行った結果、工事を打ち切り令和6年度に再発注となり、整備完了も令和6年度となりました。	236,040	44,587	3	A	I	
				251,822	102,368	4	A	I	
14	災害時の飲料水確保	・2池以上ある配水池・配水塔の耐震化及び緊急遮断弁等の整備 ①黒川高区配水池(令和4年度未完了) ②千代ヶ丘配水塔(1号塔・2号塔)(令和6年度未完了)	・2池以上ある配水池・配水塔の耐震化及び緊急遮断弁等の整備については、黒川高区配水池の耐震化と緊急遮断弁の整備を令和4年度末に完了しました。しかし、千代ヶ丘配水塔2号塔の工事で、騒音・振動に関する強い陳情への対策に時間を要し工事が遅延しているため、千代ヶ丘配水塔(1号塔・2号塔)工事の完成が令和7年度となりました。	-	-	3	A	I	
				-	-	3	A	I	

15	施設の停電対策・浸水対策	・長期停電への対策 ①燃料タンクの増強 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策(耐水化) ②浸水対策	・長期停電への対策については、潮見台配水所の整備を令和4年度に着手し、令和5年度の完成予定としていましたが、入札不調により再発注となり、令和5年度に着手し完成は令和6年度となりました。また、高石配水塔の整備については、詳細設計委託業務等を行いながら整備に向け取組を推進しました。 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策(耐水化)については、福田取水所、工水管3号さく井、工水管6号さく井の浸水対策を完了しました。なお、計画していた工水管1号さく井については、令和3年度の詳細検討の結果、浸水想定水位では浸水しないことが判明したため、対応が不要となっています。	45,540	0	4	A	I
				101,815	96,813	4	A	I
担当課	水道計画課							

3 施策の達成状況

	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	B	・「水道管路の耐震化」、「水道基幹管路の強化」、「工業用水道基幹管路の強化」、「災害時の飲料水確保」については、順調に進捗したが、「水道施設の耐震化」、「応急給水拠点等の整備」、「施設の停電対策・浸水対策」については、一部の工事等で、入札不調や工法変更等に起因した遅延により、わずかに目標を下回った取組もあったため。

4 今後の方向性

	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	・「水道施設の耐震化」、「水道管路の耐震化」、「水道基幹管路の強化」、「応急給水拠点等の整備」、「災害時の飲料水確保」、「施設の停電対策・浸水対策」については、いつでも安心して使用することのできる水道水を安定して供給するとともに、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限に抑えるためには、引き続き取組を進めていく必要があることから現状のまま継続します。 ・「工業用水道基幹管路の強化」、「施設の停電対策・浸水対策」については、工業用水の安定供給を維持するとともに、大規模地震発生時にも、工業用水道利用者への影響を最小限に抑えるためには、引き続き取組を進めていく必要があることから現状のまま継続します。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

経営戦略・危機管理室〔危機管理〕

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	災害時の機能維持
	施策 4	水道・工業用水道の危機管理対策
施策の概要	大規模地震や激甚化・頻発化する風水害などを踏まえ、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的に行い、上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直しによる実効性の向上、災害対応能力の強化を進めます。また、広域的な応援体制の構築につながる大都市等との訓練の継続的な実施により、災害時の連携強化を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
16	災害対応能力の強化	PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的に行い、上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直しによる実効性の向上、災害対応能力の強化を進めます。	職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施については、相互応援訓練等を6回実施しました。 ビデオ会議システムについては、令和6年7月からの運用開始に向けシステム納入業者とシステム構成を決定し、内線電話システムについては、令和4年度に本庁舎、長沢浄水場、等々力水処理センターの3拠点におけるシステム構築が完了しました。	R4年度	56,143	43,947	3	A	II
				R5年度	73,804	51,457	3	A	II
				R6年度	101,554				
17	災害時の連携強化	広域的な応援体制の構築につながる大都市等との訓練の継続的な実施により、災害時の連携強化を進めます。	他事業体と連携した訓練については、日本水道協会による訓練や、協定や覚書を締結している他都市間との相互応援訓練を6回実施し、災害時の連携強化を図ることができました。	取組16「災害対応能力の強化」に含まれる。		3	A	II	
				3	A	II			

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課	水道計画課
-------	-------

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	水道・工業用水道施設・管路の適切な管理と更新【持続】
	施策 5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策
施策の概要	アセットマネジメントに基づき、中長期的な視点から、重要度や経年度を考慮し、施設・管路の更新の優先度を定めるとともに、財政収支との整合を図りながら、運転管理や点検調査及び修繕の実績等も考慮した適切な使用年数での更新を進めます。 また、工業用水道の将来の需要動向を踏まえた施設配置や施設規模等、更新等に向けての検討を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
18	施設の計画的更新	●水道事業 ・施設の更新・長寿命化 ①長沢浄水場排水処理施設 ②千代ヶ丘配水塔1号塔 ③鷺沼配水池 ④高石配水塔 ・主要設備の計画的な更新の推進 ●工業用水道事業 ・施設の更新 ①長沢浄水場排水処理施設 ・主要設備の計画的な更新の推進	・水道事業の施設の更新・長寿命化については、長沢浄水場の排水処理施設の更新工事を推進し、高石配水塔の長寿命化工事を完了しました。また、主要設備の計画的な更新の推進については、千代ヶ丘送水流量計等の更新を完了しました。 ・工業用水道事業の施設の更新については、長沢浄水場の排水処理施設の更新工事を推進しました。また、主要設備の計画的な更新の推進については、生田浄水場排水処理施設の監視制御装置の改良工事等を推進しました。	3,185,597	1,287,887	3	A	I	
				5,254,563	2,829,483	3	A	I	
所管課	水道計画課								
19	管路の計画的更新	●水道事業 ・管路の更新の推進 更新時期を迎えた管路の更新の推進 ●工業用水道事業 ・管路の更新の推進 更新時期を迎えた管路の更新の推進	・水道事業の管路の更新の推進については、計画値を上回る約94.2kmの管路更新を実施しました。 ・工業用水道事業の管路の更新の推進については、2路線約1.6kmの管路更新を実施しました。1路線0.9kmについては、試掘調査の結果、工法変更や関係課所との調整に時間を要したため、令和7年度の完成となりました。	1,135,557	204,721	3	A	I	
				1,152,535	827,557	3	A	I	
所管課	水道計画課								
20	施設・管路の将来構想	●水道事業 ・基幹管路の使用可能年数の検討 ・水需要の変化等を踏まえた適正口径の検討 ・基幹管路の更新を見据えたバックアップ機能の強化(二重化・ネットワーク化)の検討・実施 ●工業用水道事業 ・施設及び送水管路の更新に向けた検討・調整	・水道事業の基幹管路の使用可能年数の検討については、業務委託を発注し、蓄積したデータを基に基幹管路の使用可能年数について検討を行いました。また、基幹管路の更新を見据えたバックアップ機能の強化の検討・実施については、1路線の整備に着手しました。 ・工業用水道事業の施設及び送水管路の更新に向けた検討・調整については、川崎市上下水道事業経営審議委員会の答申を踏まえ、令和6年度の基幹施設更新基本計画策定に向けて、長沢浄水場の更新に関する基本計画案をとりまとめました。	19,030	17,490	3	A	I	
				0	0	3	A	I	
所管課	水道計画課								

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)		A

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)		I

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

水道管理課

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	水道・工業用水道の施設・管路の適切な管理と更新【持続】
	施策 6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理
施策の概要	施設・管路及び管路付属物を定期的に点検するとともに、運転管理や点検調査等で得られた維持管理データを蓄積し、効果的かつ効果的な維持管理に活用します。 また、ICT(情報通信技術)の活用や給水管対策を推進し、漏水防止対策を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
				R4年度					
				R5年度					
				R6年度					
				R7年度					
21	施設の維持管理	・施設点検の定期的な実施 ・維持管理データの蓄積及び効果的かつ効果的な維持管理への活用	・浄水場、配水施設等の日常点検(巡視)、定期点検(月次、3か月、6か月、年次)を適切に実施しました。 ・施設の管理台帳から運転管理や点検調査等で得られた維持管理データを蓄積し、それらを活用して効果的かつ効果的な維持管理を実施しました。	2,155,319	1,678,904	3	A	I	
				2,081,427	2,289,955	3	A	I	
22	管路の維持管理	・管路の点検・調査及び修理の実施 ・ICTなどを活用した地下漏水調査等の漏水防止対策の実施	・河川を横断する管路や共同溝など目視可能な箇所での点検調査を実施し、異常がないことを確認しました。 ・マッピングシステムを活用し、効果的な調査計画を立案し、目標とした地下漏水発見効率を概ね達成しました。	834,788	675,351	4	A	I	
				465,661	521,509	3	A	I	
23	管路付属物の維持管理	・管路付属物の確かな情報把握と計画的な点検・調査及び修理の実施	・管路付属物の定期的な点検・調査を2年間で260箇所実施し、水道・工業用水道の管路機能を良好に維持管理することができました。	21,862	21,670	3	A	I	
				19,901	21,437	3	A	I	
24	給水管の保全	・配水管更新工事に伴う給水管の更新 ・輻輳して埋設されている老朽給水管の解消	・配水管更新工事等を施工し、老朽給水管を更新しました。 ・配水管が埋設されていない公道部で、給水管が輻輳する路線を対象に配水管を2年間で6.2km布設し、輻輳している老朽給水管を解消しました。	1,029,210	883,721	3	A	I	
				1,476,626	1,293,999	3	A	I	

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A	・「施設の維持管理」については、浄水場、配水施設等の維持管理を適切に行い、安定給水を確保でき、順調に推移したため。 ・「管路の維持管理」については、地下漏水発見効率の目標値を達成し、順調に推移したため。 ・「管路付属物の管理」については、計画目標とほぼ同数の管路付属物の点検・調査を実施し、順調に推移したため。 ・「給水管の保全」については、輻輳老朽給水管対策管路整備延長の目標値を達成し、順調に推移したため。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	・「施設の維持管理」については、施設等の適切な維持管理が長寿命化につながることから、現状のまま継続します。 ・「管路の維持管理」については、地下漏水発見後の修理により漏水防止できていることから、現状のまま継続します。 ・「管路付属物の管理」については、点検・調査が管路施設の安全と安定給水の確保につながることから、現状のまま継続します。 ・「給水管の保全」については、老朽給水管の更新・解消が良質で安全な水を供給につながることから、現状のまま継続します。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課	水道管理課
-------	-------

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上
	10年間の方向性	水環境・地球環境への配慮
	施策 7	水道・工業用水道の地球温暖化対策
施策の概要 2050年の温室効果ガス排出実質ゼロの達成を目指し、小水力発電、太陽光発電などの再生可能エネルギーの有効利用、自然流下方式による水道システムや上流からの取水量の優先的利用による位置エネルギーの有効利用、設備の更新に合わせた高効率機器・省エネルギー機器の導入など地球温暖化対策を推進します。		

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
25	再生可能エネルギーの有効利用	・再生可能エネルギーの有効利用 ・再生可能エネルギーの活用に向けた検討	・小水力発電、太陽光発電を継続し、再生可能エネルギーの有効利用を図り、昨年度の発電量を上回りました。 ・更なる再生可能エネルギーの活用に向けて、末吉配水池への太陽光発電設備の導入のための環境局との調整、江ヶ崎制御室の小水力発電設備更新のための共同事業者選定の準備等を進めました。	-	-	3	A	I	
				-	-	2	A	I	
26	省エネルギー対策	・自然流下による水道システムの継続 ・上流取水の優先的利用の推進 ・高効率機器・省エネルギー機器の導入	・自然流下による水道システムを継続したことで省エネルギー化に貢献しました。 ・上流取水の優先的利用の実現に向けて、水利使用許可審査を進展させるため、河川管理者の指摘に対し追加資料の提出など対応を行いました。 ・設備更新に合わせた省エネルギー機器導入では、黒川配水池電気設備更新を令和6年度完了予定とし、新たに2件の工事を発注しました。 ・これらの取組を推進するとともに、工業用水道の需要減少等も重なり、電気使用量は着実に減少していますが、契約電力会社の電力排出係数が地球温暖化対策推進基本計画の想定値を上回ったため、成果指標は目標値を下回りました。	-	-	4	B	II	
				-	-	4	B	I	

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	B	B

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	I

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

		施策所管課	下水道計画課
1 施策の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成	
	10年間の方向性	大雨・浸水への備え【安全・安心】	
	施策9	浸水対策	
施策の概要		<p>水害に強いまちづくりを着実に実施していくため、浸水リスクの高い重点化地区において浸水対策を進めるとともに、令和元年東日本台風により浸水被害が発生した排水樋管周辺地域をはじめ、地形的要因や排水施設の部分的な能力不足などにより発生している局地的な浸水箇所において、地域特性を踏まえた効果的な浸水対策を進めます。また、河川氾濫等の災害時においても、最低限の下水処理など、一定の下水道施設の機能を確保するため、水処理センター・ポンプ場の耐水化を進めます。</p>	

2 施策を構成する取組の評価										
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性		
				予算額	決算額					
	取組所管課			R4年度						
				R5年度						
				R6年度						
				R7年度						
29	重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策	<p>浸水リスクの高い重点化地区において浸水対策を進めるとともに、令和元年東日本台風により浸水被害が発生した排水樋管周辺地域をはじめ、地形的要因や排水施設の部分的な能力不足などにより発生している局地的な浸水箇所において、地域特性を踏まえた効果的な浸水対策を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●重点化地区(三沢川地区、土橋地区、京町・渡田地区)における雨水管きよなどの整備の推進については、雨水管きよなどの整備を推進。(R4:約52.5ha、R5:約64.2ha) ●重点化地区(京町・渡田地区、大島地区、観音川地区)における雨水管きよなどの整備の推進については、入江崎統合幹線による一体的な対策の実施に向けた検討及び関係部局との協議を推進 ●重点化地区(川崎駅東口周辺地区)における雨水管きよなどの整備の推進については、既存施設の活用や新たな雨水対策施設等の整備による効果的な対策の検討を推進。 ●局地的な浸水箇所における対策の推進については、諏訪排水樋管周辺地域において既存仮排水所のポンプ能力の増強等を完了したほか、山王排水樋管周辺地域におけるバイパス管の整備を完了。また、ポンプゲート設備による中期対策の推進に向けた河川管理者との協議を推進。さらに、千年地区の浸水対策工事を完了。 ●市内全域の排水樋管ゲートにおける電動化及び観測機器の設置等の推進については、宿原排水樋管において整備を完了。 	1,592,146	1,900,136	3	A	I		
						1,079,920	1,316,077	3	A	I
				所管課	下水道計画課			1,102,114		
30	水処理センター・ポンプ場の耐水化	<p>河川氾濫等の災害時においても、最低限の下水処理など、一定の下水道施設の機能を確保するため、水処理センター・ポンプ場の耐水化を進めます。</p>	<p>水処理センター・ポンプ場の耐水化の推進については、江川ポンプ場及び戸手ポンプ場の耐水化工事を完了。</p>	210,000	75,302	3	A	I		
				76,250	118,264	3	A	I		
				48,700						
所管課	下水道計画課									

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	<p>A. 順調に推移した (目標を達成した)</p> <p>B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)</p> <p>C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった)</p> <p>D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)</p>	A	<p>浸水対策を着実に進め、活動指標である「浸水対策実施率」などの目標値を達成することができました。</p>

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する)</p> <p>II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	I	<p>重点化地区における浸水対策については、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めるため、着実な推進が必要となることから、継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。</p> <p>局地的な浸水箇所における浸水対策については、排水樋管周辺地域において、中期対策の整備及び長期対策の実現に向けた取組を着実に進めます。</p> <p>水処理センター・ポンプ場の耐水化については、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めるため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。また、国が洪水により想定される浸水深を見直したことから、耐水化計画の見直しに向けた検討を進めます。</p>

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】
	施策10	下水道の管きよ・施設の地震対策
施策の概要	<p>大規模な地震が発生した場合でも、下水道機能を損なうことのないように、管きよの耐震化や施設の耐震補強、再構築に合わせた耐震化の推進など、計画的かつ効率的に下水道施設の地震対策を進めます。</p> <p>管きよにおいては、下水道機能の確保の優先度が高い避難所や重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きよを、優先的に耐震化します。また、災害時にも下水道処理機能を確保できるよう、水処理センターで発生する汚泥を処理施設に送る、汚泥圧送管を耐震化します。施設においては、市街地での下水の滞留・溢水を防止するため、下水を汲み上げ下流に流す機能(揚水機能)や、下水を消毒し公衆衛生を確保する機能(消毒機能)を持つ施設を優先的に耐震化します。</p>	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
31	下水管きよの地震対策 所管課 下水道計画課	下水道機能の確保の優先度が高い避難所や重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きよを、優先的に耐震化します。また、災害時にも下水道処理機能を確保できるよう、水処理センターで発生する汚泥を処理施設に送る汚泥圧送管を耐震化します。	<ul style="list-style-type: none"> ●重要な管きよの耐震化の推進について、市内全域、川崎駅以北の地域及び避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ重要な管きよの耐震化を推進。(R4:約4.7km、R5:約4.7km) ●汚泥圧送管の耐震化の推進について、麻生水処理センターから等々力水処理センター間の汚泥圧送管の整備を推進。(R4:約1.0km、R5:約1.4km) 	2,805,378	3,288,277	3	A	I	
				3,957,916	4,121,565	3	A	I	
				2,977,186					
32	水処理センター・ポンプ場の地震対策 所管課 下水道計画課	市街地での下水の滞留・溢水を防止するため、下水を汲み上げ下流に流す機能(揚水機能)や、下水を消毒し公衆衛生を確保する機能(消毒機能)を持つ施設を優先的に耐震化します。	<ul style="list-style-type: none"> ●水処理センター、ポンプ場の耐震化の推進について、麻生水処理センターにおいて耐震診断を実施し、汚水揚水機能が確保されていることを確認。大師河原ポンプ場において汚水揚水機能を確保に向けた工事が完了。入江崎水処理センターにおいて消毒機能確保に向けた工事を推進。入江崎水処理センターにおいて燃料貯蔵容量の確保に向けた工事が完了。 	1,190,791	659,365	3	A	I	
				754,430	970,070	3	A	I	
				714,100					

3 施策の達成状況

施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	<ul style="list-style-type: none"> A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった) 	A	下水管きよ・施設の地震対策を着実に進め、活動指標である「重要な管きよの耐震化率」などの目標値を達成することができました。

4 今後の方向性

今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<ul style="list-style-type: none"> I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である) 	I	<p>下水管きよの地震対策について、被災時に必要となる下水道機能に重点化を図り、被災時においても市民生活への影響を最小限に抑える対策を進めるため、今後も継続して事業を推進していきます。</p> <p>水処理センター・ポンプ場の地震対策について、被災時に必要となる下水道機能に重点化を図り、被災時においても市民生活への影響を最小限に抑える対策を進めるため、今後も継続して事業を推進していきます。</p>

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

経営戦略・危機管理室〔危機管理〕

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	災害時の維持機能
	施策 11	下水道の危機管理対策
施策の概要	大規模地震や激甚化・頻発化する風水害などを踏まえ、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的にを行い、上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直しによる実効性の向上、災害対応能力の強化を進めます。また、広域的な応援体制の構築につながる大都市等との訓練の継続的な実施により、災害時の連携強化を進めます。さらに、災害時の被害の最小化や災害リスク情報を発信するための取組について、関係機関とも連携しながら推進します。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
	取組所管課			R4年度					
				R5年度					
				R6年度					
				R7年度					
33	災害対応能力の強化	PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的にを行い、上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直しによる実効性の向上、災害対応能力の強化を進めます。	・職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施については、相互応援訓練等を6回実施しました。 ・ビデオ会議システムについては、令和6年7月からの運用開始に向けシステム納入業者とシステム構成を決定し、内線電話システムについては、令和4年度に本庁舎、長沢浄水場、等々力水処理センターの3拠点におけるシステム構築が完了しました。			3	A	Ⅱ	
	所管課 経営戦略・危機管理室〔危機管理〕					3	A	Ⅱ	
34	災害時の連携強化と災害リスク情報の発信の推進	広域的な応援体制の構築につながる大都市等との訓練の継続的な実施により、災害時の連携強化を進めます。また、災害時の被害の最小化や災害リスク情報を発信するための取組について、関係機関とも連携しながら推進します。	・他都市と連携した訓練については、下水道大都市ルール等による訓練を5回実施し、災害時の連携強化を図ることができました。 ・災害リスク情報の発信については、広報誌「かわさきの上下水道」による周知とともに、各自主防災組織連絡協議会や市及び各区総合防災訓練、市防災イベント「備えるフェスタ」などで積極的に周知を行いました。			3	A	Ⅱ	
	所管課 経営戦略・危機管理室〔危機管理〕					3	A	Ⅱ	
	所管課								

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A	「災害対応能力の強化」及び「災害時の連携強化と災害リスク情報の発信の推進」については、各取組において目標を達成し、進捗が図れたため。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II	「災害対応能力の強化」及び「災害時の連携強化」には、訓練等の各取組を継続して実施していくことが重要であるため、訓練における課題の改善を図りつつ今後も取組を進めていきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】
	施策 12	下水道の管きよ・施設の老朽化対策
施策の概要	<p>膨大なストックを抱える下水道では、今後、施設の老朽化が更に加速することが見込まれています。そこで、蓄積した維持管理情報から施設の健全度を把握し、重要度を考慮したリスク評価を行います。さらに、アセットマネジメントにより、それらの情報に基づく中長期的なリスクとコストのバランスを考慮した老朽化対策(管きよの再整備、施設の再構築、設備更新・長寿命化)を推進します。また、再整備・再構築と合わせて耐震化・省エネ化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。</p>	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
35	下水管きよの再整備	施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な管きよの再整備を行い、老朽化対策を進めるとともに、再整備と合わせて耐震化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●管きよ再整備重点地域(入江崎処理区及び加瀬処理区の一部)における計画的な再整備の推進(R4:約2.6km、R5:約4.6km) ●汚泥圧送管の再整備の推進(R4:約3.4km、R5:約0.7km) 	1,658,535	1,544,398	3	A	I
				1,938,393	847,544	3	A	I
				2,594,904				
所管課	下水道計画課							
36	水処理センター・ポンプ場の再構築	施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な施設の再構築を行い、老朽化対策を進めるとともに、再構築と合わせて耐震化・省エネ化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●水処理センター・ポンプ場の設備更新や再構築の推進について、入江崎総合スラッジセンター1系汚泥処理施設、渡田ポンプ場及び大師河原ポンプ場の再構築を推進。 	350,000	265,921	3	A	I
				900,000	3,536,393	3	A	I
				3,383,338				
所管課	下水道計画課							
37	水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化	施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な施設の設備更新・長寿命化を行い、老朽化対策を進めるとともに、設備更新・長寿命化と合わせて耐震化・省エネ化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●ライフサイクルコストを最小化した設備更新・長寿命化の継続について、京町ポンプ場、江川ポンプ場の設備更新を実施。 ●光ファイバーケーブル網の更新について、入江崎水処理センターから江川ポンプ場間の更新工事を実施。 	3,964,049	3,145,331	3	A	I
				4,690,403	2,819,057	3	A	I
				4,003,000				
所管課	下水道計画課							

3 施策の達成状況

施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	<p>A. 順調に推移した (目標を達成した)</p> <p>B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)</p> <p>C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった)</p> <p>D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)</p>	A	<p>下水管きよの再整備の推進を着実に進め、活動指標である「管きよ再整備率」の目標値を達成することができました。</p> <p>入江崎総合スラッジセンター、渡田ポンプ場、大師河原ポンプ場において、再構築を着実に推進することができました。</p> <p>江川ポンプ場等において、ライフサイクルコストを最小化した設備更新・長寿命化を着実に推進することができました。</p> <p>入江崎水処理センターから江川ポンプ場間において、光ファイバーケーブル網の更新を着実に推進することができました。</p>

4 今後の方向性

今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する)</p> <p>II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	I	<p>下水道の管きよ・施設の老朽化対策については、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。</p>

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】
	施策 13	下水道の管きよ・施設の維持管理
施策の概要	下水道の管きよや水処理センター・ポンプ場施設を健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施します。また、放流水質基準の遵守、エネルギーの適切な管理など、これまで蓄積した知識と経験等に基づき水処理センター・ポンプ場を適正に運転管理します。さらに、アセットマネジメント情報システムを活用し、維持管理情報を一元的に蓄積・管理するとともに、それらの情報等に基づき施設管理状況の把握・評価を行うことで、老朽化対策のほか浸水対策など各施策に活用します。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
	取組所管課			R4年度					
				R5年度					
				R6年度					
				R7年度					
38	下水管きよの維持管理	下水管きよの維持管理は、管きよを健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施します。	下水管きよの計画的な清掃、点検・調査、修繕等を実施しました。 アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析を行い、下水管きよの健全度予測やリスク評価を実施しました。	1,423,612	1,118,789	3	A	I	
	所管課 下水道計画課			1,442,649	1,257,770	3	A	I	
39	水処理センター・ポンプ場施設の維持管理	水処理センター・ポンプ場施設を健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施します。また、放流水質基準の遵守、エネルギーの適切な管理など、これまで蓄積した知識と経験等に基づき水処理センター・ポンプ場を適正に運転管理します。	水処理センター・ポンプ場の計画的な清掃、点検・調査、修繕等を実施しました。 水処理センター・ポンプ場の適切な運転管理を実施しました。 アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析を行い、施設の健全度予測やリスク評価を実施しました。	3,040,368	2,605,080	3	A	I	
	所管課 下水道計画課			3,053,839	2,851,468	3	A	I	
				3,035,701					
	所管課								
	所管課								

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A	下水管きよ・水処理センター・ポンプ場の計画的な保守点検・調査、修繕等の実施やアセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析の実施等を継続的に取り組み、安定した下水道サービスの提供を推進したため。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	下水管きよ・水処理センター・ポンプ場は、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】
	施策 14	下水道の高度処理
施策の概要	閉鎖性水域である東京湾の水質を改善するため、東京湾流域の1都3県は、「東京湾流域別下水道整備総合計画」を策定しています。本市は、関係自治体とともに、計画で定められた目標水質の達成に向け、今後も富栄養化の原因物質とされる窒素やリンの除去などを目的とした水処理センターの高度処理化に向けた取組を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
40	水処理センターの高度処理化	東京湾流域別下水道整備総合計画で定められた目標水質の達成に向け、今後も富栄養化の原因物質とされる窒素やリンの除去などを目的とした取組を進めます。	●水処理センターの施設整備による更なる高度処理化の推進について、脱窒ろ過池などの工事を推進。なお、当該施設は大規模かつ複雑な構造なことから、仮設計画に変更が生じたため、工事に遅れが発生し、目標を下回りました。 ●既存施設の一部改造や運転管理の工夫による段階的な高度処理の導入に向けた取組の推進について、既存施設を活用した運転管理の工夫による段階的な高度処理を導入に向けた調査研究を推進。	4,975,000	6,539,973	3	A	I	
				3,366,942	4,294,953	4	A	I	
				4,363,303					
	所管課	下水道計画課							

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A	等々力水処理センターにおいて更なる高度処理化に向けた脱窒ろ過池などの工事を推進するとともに、入江崎水処理センター(東系)において、段階的処理の導入に向けた調査研究を推進したことで、水処理センターの高度処理化を着実に推進することができました。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	下水道の高度処理化については、東京湾の水質環境基準を達成・維持し、快適な水環境を確保するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】
	施策 15	合流式下水道の改善
施策の概要	合流式下水道は、雨天時には、水処理センターで処理しきれない下水が川や海に放流される仕組みとなっていることから、合流式下水道の改善を確実に進めていくため、令和5(2023)年度末までに達成すべき技術上の基準が下水道法施行令で定められています。この技術上の基準を満たすよう、本市が定めた当面の改善目標の達成に向けた取組を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
41	合流式下水道の改善	合流式下水道の改善を確実に進めていくため、令和5(2023)年度末までに達成すべき技術上の基準が下水道法施行令で定められていることから、この技術上の基準を満たすよう、本市が定めた当面の改善目標の達成に向けた取組を進めます。	●合流式下水道の改善の推進について、大師河原ポンプ場の改築(汚水系統の切替)を完了。また、六郷遮集幹線の整備について、布設工事に伴う地下埋設物の移設及び支障物の撤去に係る協議調整に時間を要した結果、令和5年度の整備完了しなかったため、目標を下回りました。	2,995,988	2,072,170	3	A	I
				2,405,939	3,033,600	4	B	I
				334,237				
	所管課	下水道計画課						
	所管課							
	所管課							
	所管課							

3 施策の達成状況

施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	B

4 今後の方向性

今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】
	施策 16	下水道の未普及地域の解消
施策の概要	下水道処理人口普及率100%達成を目指し、主な下水道の未整備地区である土地区画整理事業区域内や河川沿いの区域における下水道整備の推進など、下水道の未普及地域の解消に向けた取組を進めます。	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
42	下水道の未普及地域の解消	下水道の未普及地域の解消は、下水道処理人口普及率100%達成を目指し、主な下水道の未整備地区である土地区画整理事業区域内や河川沿いの区域における下水道整備の推進など、未普及地域の解消に向けた取組を進めます。	●未普及地域解消に向けた下水道の整備の推進については、登戸地区や南生田地区で下水管きよの整備を推進(下水道処理人口 R4:約153.5万人、R5:約154.2万人)	69,260	362,782	3	A	I
				105,862	545,723	3	A	I
				21,160				
	所管課	下水道計画課						
	所管課							
	所管課							
	所管課							

3 施策の達成状況

施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A

4 今後の方向性

今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】
	施策 17	下水道の事業場指導・水質管理
施策の概要	下水道へ排出する下水の量が多い事業場、又は水処理センターで処理できない有害物質等を使用する事業場などの把握を行うとともに、水質基準の遵守を指導します。さらに、下水道への排水を監視する必要がある事業場に対して立入調査を行い、排水指導を継続して実施することで、水質基準を超過する排水を未然に防止します。また、日々変化する流入下水に対応して、適正な水処理が実施できるよう、処理過程の段階ごとに必要な水質検査を定期的に行い、良好できれいな水を継続して川や海に返します。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
				R4年度					
				R5年度					
				R6年度					
				R7年度					
43	事業場排水の指導	有害物質等を取り扱うなど下水道への排水を監視する必要がある事業場に対して立入調査を行い、排水指導を継続して実施します。	有害物質等を取り扱うなど監視を必要とする事業場に対して、年間を通じて事前通告なしに立入調査を実施しました。 また、事業場排水を採水し、水質検査・監視を行うとともに、有害物質等の取扱状況や施設の維持管理状況を確認し、指導を行いました。 これにより水質基準を超過する排水の未然防止を図り、水処理センターからの良好な放流水質を確保することができました。	-	-	3	A	I	
	所管課 下水道水質課			-	-	3	A	I	
44	良好な放流水質の確保	流入下水の変動に対応した水処理状況を把握するために、処理過程の段階ごとに必要な水質検査を定期的に行い、適正な水質管理を継続します。	水処理センターでの処理過程ごとの定期的な水質検査を実施しました。 これにより、流入下水の変動に対応した適正な水質管理を行い、水処理センターからの良好な放流水質を確保することができました。	-	-	3	A	I	
	所管課 下水道水質課			-	-	3	A	I	
	所管課								

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A	事業場排水の指導及び良好な放流水質の確保について、目標を達成しており、快適で暮らしやすい水環境の創造の実現に向け、順調に推移しています。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	下水道の事業場指導・水質管理は、快適で暮らしやすい水環境の実現に向け、今後も着実な実施が必要なことから、現状の取組を、効果的かつ効率的に継続していきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	地球環境への配慮【環境】
	施策 18	下水道の地球温暖化対策
施策の概要	2050年の温室効果ガス排出実質ゼロの達成を目指し、再生可能エネルギーの活用や高効率機器の導入、最適な運転管理などにより省エネルギー化に向けた取組を推進します。さらに、入江崎総合スラッジセンターでは二酸化炭素(CO2)と比べて温室効果の高い一酸化二窒素(N2O)の削減に向けた取組を行うなど、温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策を推進します。	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
	取組所管課			R4年度					
				R5年度					
				R6年度					
				R7年度					
45	地球温暖化対策	下水道事業による2050年の温室効果ガス排出量の実質ゼロ達成を目指します。	●入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築については、入江崎総合スラッジセンターにおいて施設の再構築を推進。 ●省エネ・創エネ機器の導入等による温室効果ガス排出削減に向けた取組の推進については、加瀬水処理センターにおいて、再構築に併せた省エネ機器の導入を実施。一方、川崎市環境配慮電力入札実施要綱に基づく電力購入の結果、電力会社における温室効果ガスの基礎排出係数が高い状況であり、温室効果ガス排出量が多くなったため、目標を下回りました。	-	-	3	A	I	
	所管課	下水道計画課		-	-	4	B	I	
	所管課								
	所管課								

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	B	活動指標である「温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)」は、目標を下回りましたが、入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築の推進や、加瀬水処理センターにおける省エネ機器の導入により、地球温暖化対策を着実に推進することができました。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	地球温暖化対策については、脱炭素社会の実現に貢献するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 また、活動指標である「温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)」は、目標を下回りましたが、今後、省エネ機器の導入や創エネなど温室効果ガス削減に向けた取組を進めていきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

下水道計画課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成
	10年間の方向性	地球環境への配慮【環境】
	施策 19	下水道の資源・施設の有効利用
施策の概要	循環型社会の構築に向けて、下水道の持つ水(下水・処理水)、汚泥、熱などの資源と施設の有効利用を推進します。また、下水道工事で発生する建設副産物のリサイクルを推進するとともに、再生資源材料を工事に積極的に採用します。	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
46	資源・施設の有効利用 所管課 下水道計画課	下水道の持つ資源(下水・処理水・汚泥・熱)や、施設(水処理センターの上部空間)の有効利用を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●高度処理水の利用の継続については、江川せせらぎ水路や近隣企業者へ提供など、高度処理水の利用を継続実施。 ●下水汚泥(焼却灰)の有効利用の継続については、焼却灰のセメント原料化を推進し、下水汚泥(焼却灰)の有効利用を継続実施。 ●汚泥焼却熱の有効利用の継続については、入江 	-	-	3	A	I
				-	-	3	A	I
				-	-			
				-	-			
47	再生資源利用の推進 所管課 下水道計画課	下水道工事で発生する建設副産物のリサイクルを推進するとともに、再生資源材料を工事に積極的に採用します。	<ul style="list-style-type: none"> ●再生資源材料を工事に積極的に採用。 ●工事で発生した建設副産物を積極的にリサイクルを実施。 	-	-	3	A	I
				-	-	3	A	I
				-	-			
				-	-			

3 施策の達成状況

施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	<ul style="list-style-type: none"> A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった) 	A	<p>処理水や汚泥焼却熱の有効利用を継続するとともに、下水道施設の空間利用について、関係局と連携し有効活用の具体化に向けた検討を進めたことにより、資源・施設の有効率用を着実に推進することができました。</p> <p>再生資源材料の採用や建設副産物のリサイクルにより、再生資源利用を着実に推進することができました。</p>

4 今後の方向性

今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<ul style="list-style-type: none"> I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である) 	I	<p>下水道の資源・施設の有効利用については、循環型社会の構築と快適な地域環境の創造に貢献するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。</p>

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

サービス推進課

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】
	施策 20	お客さまとの信頼関係の構築
施策の概要	<p>お客さまとの信頼関係を築いていくため、お客さまとの対話の機会を大切に、上下水道に関する様々な情報の発信を行うとともに、お客さまの上下水道へのニーズを的確に把握していきます。</p> <p>また、お客さまとの信頼関係を損なうことがないよう、適正な給水装置・排水設備工事の確保及び水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収に向けた取組を引き続き推進します。</p>	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
48	川崎の上下水道の魅力の情報発信	<p>お客さまには、相互の信頼関係の下で適切なサービスを提供し、納得した上でその対価を負担していただくために、様々な広報・広聴活動を行う必要があります。また、工業用水道利用者と相互の信頼関係を築くため、工業用水道利用者協議会等を通じて、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握を継続的にまいります。</p>	<p>・年4回の広報紙の発行やみずみずフェアなどのイベント等の広報活動を計画どおりかつ可能な限り効果的に実施し、市民等に対し、水道の安全性や水源地の重要性、下水道の役割等をわかりやすく伝えることができました。</p> <p>・市民意識調査やウェブアンケート等を通じて、お客さまの施策に対する認知度や広報に関するニーズを的確に把握するだけでなく、可能なものについては、次の広報活動に適切に反映するよう取り組みました。</p> <p>・工業用水道利用者協議会幹事会や全体説明会等を通じて、工業用水道事業の現状や将来構想等の説明を行いました。</p>	58,351	52,989	3	A	Ⅱ
				86,677	56,111	3	A	Ⅱ
所管課	サービス推進課							
49	適正な給水装置・排水設備工事の確保	<p>・指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習及び指定期間を更新する際の講習を実施します。</p> <p>・指定給水装置工事事業者研修会を令和5年度に開催するため、必要な準備を行います。</p> <p>・排水設備工事責任技術者に対し、神奈川県下水道協会との協定に基づき、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を実施します。</p>	<p>・指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習及び指定期間を更新する際の講習を実施しました。</p> <p>・指定給水装置工事事業者研修会を開催しました。</p> <p>・排水設備工事責任技術者に対し、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を実施したことにより、良好な排水設備工事の施行による下水道機能の確保に寄与することができました。</p>			3	A	Ⅱ
						3	A	Ⅱ
所管課	給水装置課							
50	水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収	<p>・水道料金等の徴収業務受託者に対する適切な指導等を実施します。</p> <p>・水道料金等の徴収業務における次期委託者を選定します。(5年に1回)</p> <p>・上下水道料金等業務システムの安定的かつ効率的な運用を行います。</p> <p>・徴収業務に関わる職員等への研修会を実施します。</p> <p>・地域見守りネットワーク事業へ協力します。</p> <p>・下水道使用料の徴収業務や減量・増量認定の申告に伴う現地調査等を適正に実施します。</p>	<p>・徴収業務受託者の各事業所に対する業務視察を行うなど適宜指導を実施しました。</p> <p>・徴収業務委託仕様の検討、調整を行うとともに、総合評価方式による契約手続などを進めました。</p> <p>・システムのメンテナンス作業や機能改修を行うとともに、業務受託者から定期的に運用報告を受けるなど情報共有を図りました。</p> <p>・徴収業務に関わる職員を対象としたeラーニングによる研修を実施しました。</p> <p>・水道メーター検針業務において、現地訪問時に異常発見に伴う緊急通報を行いました。</p> <p>・下水道使用料の徴収業務や現地調査等を適正に実施しました。</p>	1,346,519	1,346,519	3	A	Ⅱ
				1,305,269	1,305,269	3	A	Ⅱ
所管課	営業課							

3 施策の達成状況

	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「川崎の上下水道の魅力の情報発信」については、令和4年度末に策定した広報戦略の理念の実現を念頭に、計画していた広報・広聴事業を概ね実施することができました。 ・工業用水道利用者協議会幹事会や、全体説明会等にて、工業用水道事業の現状や、将来構想等の説明を行ないました。また、利用者大手10社に対して年末年始等の予定使用水量調査を行い、効率的な水運用を実施しました。 ・指定給水装置工事事業者の講習・研修を適時適切に実施し、給水装置工事の施行における安全性、技術力の確保に寄与しました。 ・排水設備工事責任技術者に対し、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を実施したことにより、良好な排水設備工事の施行による下水道機能の確保に寄与することができました。 ・「水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収」については、上下水道料金等業務システムの安定稼働の確保や徴収業務受託者への業務指導を実施するなど適正な水道料金や下水道使用料の徴収に向けた取組を推進しました。

4 今後の方向性

	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	<ul style="list-style-type: none"> ・「川崎の上下水道の魅力の情報発信」については、広報戦略の理念の実現に向け、水道の安全性や水源地の重要性、下水道の役割等、上下水道の情報に係る広報には、広報紙、上下水道局ウェブサイト及びTwitter、各種イベントが効果的であること、また、各事業における施策の認知度やお客さまのニーズを的確に把握するためには、市民意識調査、ウェブアンケート、各種イベントにおけるアンケートや対話等が有効であることから、今後もこれらの取組を推進していきます。 ・工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握は継続的に行う必要があるため、引き続き実施していきます。 ・オンライン化した講習・研修について、受講者の利便性・参加率・学習効果を向上させるとともに、そこで得たデータを活用する事による業務の効率化を検討・実施していきます。 ・排水設備工事責任技術者に対し、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習その他の業務について、より効率的かつ効果的な執行体制を構築に努めます。 ・「水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収」については、継続的な業務点検や課題整理を進めるとともに、職員研修を効果的に実施することで、お客さまサービスや業務の質の向上に向けて取り組みます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

	施策所管課	サービス推進課
--	-------	---------

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】
	施策 21	お客様の利便性の向上
施策の概要	総合受付窓口である上下水道お客さまセンターの品質向上を図るとともに、ICT(情報通信技術)を活用した適正かつ効率的な給水装置工事の確保や料金徴収業務などお客様の利便性の向上を図る取組を推進します。	

2 施策を構成する取組の評価								
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
				R4年度				
				R5年度				
				R6年度				
				R7年度				
51	上下水道お客さまセンターの品質向上	業務マニュアル・FAQの更新、スーパーバイザー等への定期的な研修の実施、お客さまから寄せられる声の共有化、ICT活用による各種届出の効率的な受付の検討を行い、上下水道お客さまセンターの品質向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアル・FAQを更新しました。 ・お客さまの声を集約し、局内共有しました。 ・災害発生時の行動についてスーパーバイザーへ情報共有しました。 ・新規スーパーバイザーへ研修を実施しました。 ・局職員へお客さまセンターの知見を活用した研修を実施しました。 ・料金システムを改修し、入力業務の効率化を図りました。 	237,600	223,575	3	A	Ⅱ
				268,620	268,620	3	A	Ⅱ
	所管課	サービス推進課						
52	給水装置関連業務のオンライン化	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区及び麻生区管内の給水装置工事台帳の電子化を完了し、平成30年度から実施してきた電子化業務を完了します。 ・給水装置工事台帳管理システムを構築し、令和5年度からの運用開始に向けた準備を完了します。 ・給水装置関連手続きのオンライン化について、令和5年度の本格運用開始に向けた準備を完了します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から実施してきた給水装置工事台帳の電子化業務について、当初の計画どおり完了しました。 ・電子化した給水装置工事台帳のデータを有効に活用するため、給水装置工事台帳管理システムを導入しました。 ・給水装置関連手続きのオンライン化について、e-KAWASAKIの導入に合わせて、令和5年4月から本格運用を開始しました。 	41,668	24,831	3	A	Ⅰ
				1,815	1,969	3	A	Ⅱ
	所管課	給水装置課						
53	新たなサービスの提供に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・料金徴収における新たなサービスの導入に向けた検討をします。 ・水道スマートメーターに関する課題や導入効果の検証をします。 ・ICTの活用による工業用水道事業の自動検針記録計の更新をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用水量等の確認や料金の支払いをスマートフォンで行える「かわさき上下水道アプリ」の開発を推進しました。 ・水道スマートメーターでは、「New-smartプロジェクト」へ参画し情報収集を行うとともに、県内水道事業者間で実施状況等の情報共有を図りました。 ・工業用水道事業の自動検針記録計の更新について、令和6年度第4四半期からの運用開始に向け更新工事を開始しました。 	0	0	3	A	Ⅰ
				81,381	46,980	3	A	Ⅰ
	所管課	営業課						

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	<ul style="list-style-type: none"> A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった) D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道お客さまセンターのスーパーバイザーへ業務全般の研修を実施し、的確かつ迅速に対応することで、お客様の利便性が向上しました。 ・お客さまから寄せられる意見や要望等を集約・共有することで業務改善につながり、市民サービスの向上を図ることができました。 ・電子化した給水装置工事台帳のデータを有効に活用するため、管理システムの運用を開始し、併せて、大判図面を電子化するための必要な準備を行いました。 また、令和5年度から、給水装置関連手続きをオンライン化しました。 ・使用水量等の照会や料金の支払機能を搭載したかわさき上下水道アプリの開発を推進し、お客様の利便性の向上に向けて取り組みました。 ・工業用水道の自動検針記録計の更新により、事務軽減を図ります。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<ul style="list-style-type: none"> I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である) 	I	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道局の総合受付窓口として、お客さまからの問合せに的確かつ迅速に対応するため、業務マニュアルやFAQの更新、スーパーバイザーへの研修を実施する等、引き続き、上下水道お客さまセンターの品質向上を図ります。 ・給水装置工事台帳管理システムの保守管理を継続しつつ、更なる電子化を推進するため、大判図面の電子化を行います。また、オンライン申請の利用を促進します。 ・かわさき上下水道アプリの開発を引き続き推進するとともに、アプリの利用促進に向けて効果的な広報等を行います。 ・水道スマートメーターの導入については、地方公営企業としての経済性の確保という側面と水道事業におけるDX化という社会的要請の側面のバランスを考慮して方向性の検討を進めます。 ・工業用水道に係る自動検針記録計のICT化について、機器製作、設置、通信試験等を行い、本格実施に向け取り組みます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課	経営戦略・危機管理室（国際事業推進）
-------	--------------------

1 施策の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保
	10年間の方向性	国際展開の推進【環境】【持続】
	施策 22	世界の水環境改善に向けた国際事業
施策の概要	<p>水関連の技術・製品や海外ビジネスのノウハウを有する民間企業と、上下水道の事業運営の技術・ノウハウを有する川崎市が連携し、関係省庁・団体の協力を得ながら水ビジネスを推進するプラットフォーム「かわさき水ビジネスネットワーク(かわびズネット)」を通じた官民連携による国際展開の活動を進めます。</p> <p>また、水環境に問題が生じている国外の地域に対しては、独立行政法人国際協力機構(JICA)等と連携し、開発途上国等への職員派遣や、羽田空港から近い立地である特性を生かした、海外からの研修生や視察者の受入れにより、「技術協力による国際貢献」を行います。</p>	

2 施策を構成する取組の評価									
取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性	
				予算額	決算額				
	取組所管課			R4年度					
				R5年度					
				R6年度					
				R7年度					
54	官民連携による国際展開	世界の水環境改善への貢献のため、かわさき水ビジネスネットワーク(かわびズネット)を通じた水関連企業の海外展開支援を推進します。	かわさき水ビジネスネットワーク会員向けセミナーの開催や、海外展開スキームへの応募に向けた支援等の取組を実施するとともに、国内における情報発信の充実を図りました。	—	—	3	A	I	
	所管課			—	—	3	A	I	
				—	—				
				—	—				
55	技術協力による国際貢献	世界の水環境改善への貢献のため、JICA等を通じた専門家派遣や研修生・視察者の受入れの推進による川崎の上下水道技術を世界へ発信します。	JICA技術協力プロジェクトでラオス国「水道事業運営管理能力向上プロジェクト」に参画するとともに、JICA章の根技術協力プロジェクトでは、インドネシア国マカッサル市「地下漏水対策実行能力向上プロジェクト」、同国バンドン市「排水水質改善に向けた能力向上プロジェクト」で技術支援を実施するなど、専門家等の職員派遣を17件、研修生・視察者の受入れ等を22件実施しました。	—	—	3	A	I	
	所管課			—	—	3	A	I	
				—	—				
				—	—				
	所管課								

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
	<p>A. 順調に推移した (目標を達成した)</p> <p>B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)</p> <p>C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった)</p> <p>D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)</p>	A	上下水道分野における国際展開推進事業においては、かわさき水ビジネスネットワークを通じた市内企業等の海外展開支援及びJICA等を通じた専門家派遣や海外からの研修生・視察者の受入れについて、順調に推移し目標を達成することができました。

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	I	上下水道分野における国際展開推進事業においては、市内企業の国際競争力の強化や川崎市のプレゼンスの向上が図られていることから引き続き事業を推進していきます。

中期計画評価シート【施策・(中間・総括)評価】

施策所管課

経営戦略・危機管理室（経営戦略）

1 施策の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保【持続】
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保【持続】
施策の概要	<p>緊急時などを想定した即応体制を確保しながら、効率的・効果的な業務執行体制となるよう見直しを実施するとともに、人材育成を効果的に推進し市民生活を支える専門家集団として必要な知識・技術・技能を継承します。</p> <p>また、更なるお客さまサービスの向上や業務の効率化、業務継続性の向上等に向けたデジタル化の推進により運営基盤の強化を図るとともに、資産の有効活用による収益確保策の検討や、料金等のあり方などの財政基盤の強化に資する検討を進めます。</p>	

2 施策を構成する取組の評価

取組番号	取組名	取組の概要 (簡潔に記載)	取組の実績	事業費(千円)		取組内容に対する達成度	施策への貢献度	今後の取組の方向性
				予算額	決算額			
56	組織機構及び職員定数の見直し	<p>・経営の効率化を推進するため、緊急時の即応体制などを考慮しながら、引き続き適正な職員定数の管理と効果的・効果的な組織整備を推進します。</p>	<p>・財務会計システムの構築作業の完了、一部追加機能のリリースを行い、財務事務に係る業務分析の結果を踏まえた、財務事務の執行体制の検討を行いました。また、手作業で行っていた事務のシステム化を行いました。</p> <p>・自動車運転手及び下水作業員の平常時と危機事象時における役割や必要人員の精査等を踏まえた、業務執行体制の構築及び配置車両尾の適正化に向けた検討を行いました。</p> <p>・事業所に新たなスタッフ制を導入することで、業務平準化・効率化を推進しました。</p>	-	-	3	A	I
				-	-	3	A	I
				-	-			
				-	-			
				-	-			
57	人材育成の推進	<p>・専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、職場におけるOJT(職務遂行を通じた教育訓練)を中心に、OJTを発展させた職場研修や局研修を実施するほか、専門的な知識や高度な技術の習得等を図るため、積極的に派遣研修や国内外の貢献活動への職員派遣を実施します。</p> <p>・組織の方針や使命、行動指針等を職員一人ひとりに浸透させ、職員の学ぶ意欲を生かす人材育成環境の整備等により職員の改革意識や意欲の更なる向上を図り、専門的な知識・技術・技能を確実に継承しながら、人材育成を効果的に推進します。</p>	<p>・職場におけるOJTを推進し、業務遂行上必要な基本的な知識及び技術の習得と実務能力の向上を軸とした研修を実施するとともに、必要な高度・専門的知識及び技術を習得させるため、外部が主催する研修へ参加しました。</p> <p>・職場体験研修の実施や育成型ジョブローテーションに取り組むことにより、職員のキャリア形成の推進に努めました。</p> <p>・職場風土改善のため、職場提案や業務改善・研究発表会、ラウンドテーブルミーティングによる意見交換会等を実施しました。</p> <p>・「人材育成の取組の浸透度アンケート」において、選択肢に「無回答」を含めたことや、回答項目を細分化し選択肢を増やしたことから比較を困難にいたしましたこと、浸透度の目標を下回りました。</p>	-	-	3	A	II
				-	-	4	A	II
				-	-			
				-	-			
				-	-			
58	デジタル化の推進	<p>・ICTにおける技術革新の急速な進展等による環境変化を的確に捉え、更なるお客さまサービスの向上や事業運営の効率化、働き方・仕事の進め方改革の推進に向け、適切なシステム導入や情報セキュリティ対策を継続して実施していきます。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、非接触を念頭に置いたお客さまサービスへの転換や業務継続性の向上など、引き続きスピード感を持ってデジタル化を推進していきます。</p>	<p>・局内の情報化計画及びシステム導入に関する評価・調整を適切に実施した上で、計画的に情報化を推進しました。</p> <p>・令和4年度末までに電子申請が可能な手続は全てオンライン化を実施しました。</p> <p>・新しい生活様式を踏まえたデジタル化の取組について、市長事務部局と連携し、テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化を推進しました。</p>	-	-	3	A	I
				-	-	3	A	I
				-	-			
				-	-			
				-	-			
59	資産の有効活用	<p>局資産の有効活用を図ることにより、収益の確保に貢献しているため、用地等の貸付けによる有効活用や再生可能エネルギー創出に向けた取組を推進します。</p>	<p>・自動販売機設置スペースの一時貸付をしたほか、月極駐車場など土地の有償貸付などを継続実施し、資産の有効活用を行いました。</p> <p>・中野島さく井跡地の使用者の募集のため、看板設置やホームページでの周知実施の方策を決めました。</p> <p>・生田浄水場用地の有効利用として、生田ふれあい広場・多目的広場やAnkerフロントタウン生田についてR5年度に共用開始しました。</p> <p>・末吉配水池上部や入江崎水処理センター西系施設上部に太陽光発電を導入する方針を定め、西系施設上部には、太陽光発電の導入の公募に向けた発注支援業務委託を行いました。</p>	-	-	3	A	I
				-	-	3	A	I
				-	-			
				-	-			
				-	-			

60	財政基盤の強化に向けた検討	将来的に人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新などによる事業費の増加が見込まれています。そのような将来の事業環境を見据え、適正な水道料金・下水道使用料のあり方や適切な資金の活用方法を検討するとともに、老朽化した施設の更新のため、財政的な検証を踏まえた効率的・効果的な計画を検討します。	<p>・工業用水道事業の施設更新及び料金制度のあり方について、R4年度に川崎市上下水道事業経営審議委員会へ諮問を行い答申を受領しました。R5年度には、その答申を踏まえた方向性を工業用水道利用者へ説明するとともに、将来の水需要に関する調査を実施し、施設更新計画の策定と新たな料金制度の検討を行いました。</p> <p>・企業債の発行方法等について、水道事業会計及び工業用水道事業会計は将来の金利上昇リスク等を考慮し、公的資金からの借入れに加え、借換えを前提に法定耐用年数未滿での満期一括償還による民間等資金を活用した借入れを組み合わせました。また、公的資金の借入れについて、元利均等償還から元金均等償還に変更しました。下水道事業会計は、公的資金の借入れについて、元利均等償還・据置期間5年から元金均等償還・据置期間2年に変更することにより、支払利息の低減を図りました。</p> <p>・累積資金の効果的な活用方法として、一般会計を含む会計間の資金融通について、財政局・会計室等と覚書を締結し、また、債券運用に向け関係する要綱、要領、指針を改定し、令和6年度から新たな資金運用手法の導入に向け取り組みました。</p>	-	-	3	A	II
				-	-	3	A	II
				-	-			
				-	-			
担当課	経営戦略・危機管理室							

3 施策の達成状況			
施策の達成状況 (施策を構成する取組の達成度から評価)	達成状況区分	選択区分	施策の達成状況区分を選択した理由
		<p>A. 順調に推移した (目標を達成した)</p> <p>B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)</p> <p>C. 進捗が遅れた (目標を下回るものが多くあった)</p> <p>D. 進捗が大幅に遅れた (目標を大幅に下回るものが多くあった)</p>	A

4 今後の方向性			
今後の取組構成の妥当性 (手段は妥当か?)	取組構成区分	選択区分	「取組構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		<p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま継続する)</p> <p>II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成でない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	II